

はまなす学級（自閉症・情緒障害特別支援学級）生活単元学習指導案

日 時 平成29年11月8日（水）6校時

場 所 はまなす学級教室

学 級 はまなす学級（男子2名、女子1名、計3名）

指導者

1 単元名 「自立に向けた接し方、話し方を学ぼう」

2 単元について

(1) 教材観

本単元「自立に向けた接し方、話し方を学ぼう」は、社会に出ていく最終の準備段階である特別支援学校高等部へのスムーズな移行を目指し、受検で自分の力をしっかり発揮できることを念頭に置き、学習を展開しようと考えている。

また、本単元では、模擬作業課題を提示して課題の内容を理解し実施するとともに、落ち着いて課題に取り組めるように検査への心構えを作っていくことが目的である。最初の作業課題では、緊張と戸惑いで力を十分に発揮できないでしまうことや、固まって動けなくなってしまう生徒が出るのが予想される。出題者からの説明をよく受け止め理解しようと努力し、分からない時には質問をしてでも理解しようとする心構えと態度が大切になってくる。ただ単に作業の技能を磨くことが主目的とならないように気をつけたい。

また、面接についても質問の意味を理解し答えるとともに、面接官との問答を通して自分の進路に対する考え方を見直したり深めたりする場となることを第1の目標に掲げ、表面的な問答とならないようにしたい。

(2) 生徒観

本単元を学習する3名の生徒のうち、2名はこれまでの教育相談等の話し合いから、進路先は特別支援学校の高等部への進学を希望している生徒であり、1名は集団規模が大きいと参加できないことから、通信教育課程の高校進学を希望している。したがって、1名については作業能力検査に備える必要感は薄いのであるが、指示内容を理解し取り組む技能と態度は将来就労するためには必要なことと考えている。本単元を異学年の中で取り上げ、一斉に行うのは初めてで戸惑うことが予想されるので、どうしてこのような学習に取り組むのか理解させるとともに、取り組み過程でよい行動が見られたときには、賞賛し自信につなげるように努めたい。

(3) 研究主題との関わり

生徒指導の三機能における、「自己決定の場を与える」では、面接練習での質問内容を考え決定したり、作業能力検査をする際には、その順番を決めさせたい。「自己存在感を与える」では、振り返りの場面を設けて生徒の活動でよかったことを発表し合えるようにしたい。「共感的人間関係を育成する」では、頑張ったことやよかったことを確認したり、発表し合う場面を設ける。

学習の「見直し・振り返り」の見直しについては、紙板書等で視覚的に提示し、授業の流れに見直しをもてるように工夫する。また、振り返りについては、頑張ったことやよかったこと、あるいは次回への課題点などをまとめ発表し合えるようにする。

3 単元の目標

中学校を卒業し、社会に出ていく際のハードルのひとつに受検という機会があることを理解させる。特に特別支援学校では、面接、作業能力検査、学力検査があり、生徒一人ひとりのよさを見つけるために行うことを理解し、失敗を恐れずに自分のよさを発揮できるように支援する。

また、生徒が自信をもって取り組むことができるように間違いを指摘することよりも、よかったことや頑張ったことに着目し、受検本番に向けて自信をもって取り組むことができるようにするとともに、将来どこに行っても使える力を身に付けさせる。

4 単元の指導計画 (本時7/10)

時間	学習内容	学習活動
1	受検を知ろう	学習の目的を理解し、受検の概要を知る。
2	面接練習をしよう (1)	面接シートの項目の内容を理解し、助言を聞きながら丁寧な言葉づかいになるように記入する。
3	面接練習をしよう (2)	入退室のマナーを理解し練習する。
4	面接練習をしよう (3)	教師が面接官となり、マニュアル通りに面接練習をする。
5	作業能力検査に備えよう	提示された作業能力検査の内容を聞き、分からないところは質問しながら取り組む。
6	面接と作業能力検査をしよう (1)	前半は生徒が面接官の役割を担当し面接練習をする。後半は作業能力検査の内容を理解し取り組む。
7 (本時)	面接と作業能力検査をしよう (2)	前半は生徒が面接官となり、マニュアル通り面接練習をする。後半は作業能力検査の内容を理解し取り組む。
8	学力検査に備えよう (1)	質問紙による学力検査に取り組む。(国語)
9	学力検査に備えよう (2)	質問紙による学力検査に取り組む。(数学)
10	面接練習をしよう (4)	集団面接を行うとともに、関連質問も交えた本番に近い面接練習に取り組む。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

①共通の目標

- ・生徒が面接官となり質問内容を決め質問することができるとともに、その質問に答えることができるようにする。
- ・作業能力検査の順番を決めるとともに、検査内容を正しく理解し取り組むことができるようにする。

②個別の目標

生徒	個別の目標・評価	目標達成のための支援	評価	
			生徒	教師
2年 男子G	<ul style="list-style-type: none"> ・面接ではマニュアル通りに答えることができる。 ・作業能力検査では意欲的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを手元に用意させ、必要に応じて見てもよいことにする。 ・これまでの取り組んだ実績を表に示し、目標をもたせる。 		

3年 男子K	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が取り組んでいる様子をカーテン越しに見聞きすることができる。 ・SSTのプリント学習に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カーテンを用意し個別のスペースを確保する。 ・話し方に関わるSSTのプリントを用意する。 		
3年 女子N	<ul style="list-style-type: none"> ・面接では昨年までの経験を生かし、下級生の手本を示すことができる。 ・作業能力検査では指示をよく理解し、取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よかった場面を取り上げ賞賛する。 ・検査の指示は視覚支援も含め、明確となるようにする。 		

(2) 本時の指導構想

本時の導入では、面接の順番や作業能力検査の順番等を生徒に決めさせ、それを黒板に掲示することで見通しをもたせたい。

本時の展開では、自己決定の場として、面接練習での質問内容を考え決定したり、作業能力検査をする際には、その順番を決めさせたい。また、振り返りの場を設けて生徒の活動でよかったことを発表し合うことで、自己存在感を与える場としたい。共感的人間関係を育成する手だてとして、頑張ったことやよかったことを確認したり、発表し合う場を設けたい。

本時の終末では、自分自身のこと以外に、友達のよかったことや頑張ったことを発表し合い、次の活動への意欲につながるようにしたい。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動		教師の評価 (○)・支援・留意点
導入 10分	1 始まりのあいさつ	見 通 し	・始まりのあいさつをする。	・係にあいさつの促しをする。
	2 本時の学習の確認 ・面接の順番の決定 ・作業能力検査の種類 の決定		・話し合いをして面接の順番を決める。 ・作業能力検査の種類を決める。 【決定】	○面接や作業能力検査の順番を生徒の意志で決めることができる。 ・学習の流れが分かるように視覚表示する。
面接と作業能力検査に挑戦しよう				
展開 30分	3 面接練習をしよう		・質問内容を決め質問する。【決定】 ・順番に面接練習をする。	・質問用紙のマニュアルの準備をさせる。 ・生徒の質問数は2問とし、残りは教師が補足質問する。 ○マニュアル通りに答えることができたか。(G男) ○カーテン越しに見聞きできたか。(K男) ○下級生の手本とすることができたか。(N子)
	4 面接練習の振り返り		・面接練習でよかったことや改善点を発表し合う。【存在】【共感】	・生徒からよかったこと等を発表させ、気づかなかった部分を教師が補う。
	5 作業能力検査の練習をしよう		・予定していた順番にしたがい、作業能力検査を行う。	・作業能力検査の内容が分かりやすい表示を工夫する。 ・これまでの取り組み過程が分かる表を用意する ○意欲的に取り組めたか。(G男) ○SSTのプリントに取り組めたか。(K男) ○指示を理解し取り組めたか。(N子)
終末 10分	6 本時の学習の振り返り	振 り 返 り	・本時の学習の振り返りを行う。	
	【「振り返り」】 「伝えたいことは全部言えてよかった」 「作業能力検査にしっかり取り組むことができてよかった」			
	7 次時の学習の確認		・次時の学習内容を確認する。	・次時は質問紙による学力検査に取り組むことを確認する。
	8 終わりの挨拶		・終わりの挨拶をする。	・係にあいさつの促しをする。

【決定】：自己決定の場を与える手立て

【存在】：自己存在感を与える手立て

【共感】：共感的な人間関係を育成する手立て